

# 震災ボランティア派遣 FAX通信⑧

各組合・地域労連

御中

2011年5月13日



青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール [ao110@kenrouren.jp](mailto:ao110@kenrouren.jp)

【発信者】事務局長 有馬美恵

## 民医労・小田切さんも活躍!

5月4～6日の3日間、ボランティア第2チーム5人のうちの1人として参加した民医労の小田切郁（かおる）さんから感想が寄せられましたのでご紹介します。

5月4日～6日の3日間、大船渡市のボランティアに入らせていただきました。

ボランティア1日目と2日目は写真の修復作業（写真洗い）の作業をさせていただきました。作業自体は大変なものではありませんでしたが、この震災がなければ見る事もなかったであろう、名前も知らない方々が写った写真を洗っていました。中には一組の家族の歴史が刻まれたアルバムもありました。若い夫婦に家族がだんだんと増えていき、子供たちの誕生会や小中学校時代の運動会、高校の入学式の写真など、そういった写真を手に取ると、写っている人が自分や自分の家族に見えてくる錯覚さえも覚え、この写真達が持ち主の手元に戻ることを心から祈って作業しました。写真についた泥や匂い、海水や油に浸った為にインクが滲んだ写真を見て、家族の大切な歴史をも奪っていった津波の恐ろしさに圧倒されました。

3日目は南リアス線の線路脇の斜面のゴミ拾いをしました。斜面には売り物だった鯛やサンマなどの魚が腐敗して悪臭を放ち散乱していました。海岸から流された木もひっかかっていました。自分の住んでいる町でさえまともにゴミ拾いをした事はないのに、汗をかきながらゴミ拾い作業をさせていただきました。

今回は地元大船渡市の方と一緒にボランティア活動できる機会もあり、直接お話を伺う事も出来ました。津波で会社が流され無職になり、やる事が無いからボランティア活動をしているといった若い女性もいました。また別の女性は、自分達のように家は流さ



写真にも粉塵や油・汚泥がついているのでマスクと手袋はかかせない。写真が破れないように慎重に作業する小田切さん。奥の人たちは写真を洗浄する地元ボランティアの方々。

れない地域の人たちは、自分達の手だけで何とかしなければならなくて、食べ物がない時ひとつのカップラーメンを大人三人でふやかして食べた、物資不足の時は、遠方の親せきや知り合いが物資を送ってくると、「あその家に宅急便がきてたよ」「昨日、〇〇ナンバーの車があその家についてたよ」などと近所の人に言われ、それが精神的に一番疲れたと話してくれました。

テレビ等で被災地の状況は見ていたので、現地の光景に特別驚くことはありませんでしたが、実際自分の目で被災地を見ると言葉は出ませんでした。津波の爪痕という言葉だけでくくってしまうには足りない、被災地だけでは背負いきれない現実をまざまざと見せつけられた感じがしました。現地で感じた、匂い・音・空気などじわじわと自分の肌にしみ込んでいくような感覚で、決して忘れられないと思いました。また今回の活動において、中心となり活動の調整・誘導を行っておられる、全労連や地元いわて労連の事務局の方々の働きに感動を覚えました。

今回、ボランティア活動に参加させていただき、様々な事を感じ考える事ができたと思います。このような活動に参加する事ができて感謝しております。

本当にありがとうございました。m ( \_ \_ ) m



市場から流れ、悪臭のもととなっていた魚たちを回収。急斜面での作業だったので転ばないように気をつけながら。

**あなたもボランティアに行ってみませんか？交通費・宿泊費などは全額「県労連ボランティア派遣カンパ」から支出します。1人だけの参加でも大丈夫です。**

